

2020年度の主な事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

■事業実施の概要について

【森林が持つ機能を最大限に発揮するための「協働」の取り組み】

・山麓アクションプログラムに基づき、森林が持つ公益的な多面的機能を最大限に発揮する森づくりを目的として、市民が主体的に一定の役割を担う「協働」の取り組みを進めました。

・活動に必要な資金や労力を、地権者である山林所有者や行政だけに求めるのではなく豊富なネットワーク・ノウハウ・人材を活かして、情報の共有化と意見交換を通じた協議会活動や災害に強い森づくりの活動、山林整備ボランティアの育成や山林整備サポートなどに注力し、着実に取り組みました。

【持続的な仕組みによる山麓保全活動の着実な推進】

・「みのお山麓保全活動補助金事業」を受けて、山麓保全委員会が山林所有者や市民団体に助成金を交付して山麓保全活動を行う事業と、山麓保全委員会が独自で行う保全活動の二本立ての仕組みで取り組みました。

・昨年まで「りそな銀行」が行っていた助成金の交付や審査会の開催に関する事業に新たに取り組み、あわせて助成に関するQ&Aや書式の改訂を行うなど、「協働」の取り組みを進めるため、持続的な仕組みへの円滑な移行に努め、着実に推進しました。

【「自然緑地」の同意率向上と山林整備サポート強化に注力】

・粟生間谷地区/素戔鳴尊神社北から彩都西方の広大な山麓部を所有の企業から自然緑地の同意を得て、同意率は63%に大きく伸長しました。

・49件(前年より4件増)の山林所有者からの山林整備ボランティア派遣要請を受けて、毎年増加する山林所有者からの要請に応える人材育成のため、山林整備ボランティア養成講座を行い、延べ613人日のボランティアが山林整備活動に参加しました。

【山麓保全活動をささえる持続可能な財務体質づくり】

・NPO法人として自立した、持続可能な財務体質の改善を図りました。

・箕面市からの補助金、大阪府からの箕面ビジターセンター企画運營業務に加えて、三つ目の柱として、寄付金収入の拡大や公益財団法人夢&環境等宮崎基金への助成申請を行い植樹などの災害に強い森づくり活動を進めました。

・寄付金収入 ¥925,995 公益財団法人からの助成金 ¥500,000
(災害復興を目的とした募金 ¥508,436、山麓保全委員会への募金 ¥417,559)

【新型コロナウイルスがもたらす環境変化への対応】

・コロナ禍により、各種イベント・人材育成講座や活動の中止など大きな影響を受けましたが一般参加者の募集を中止して関係団体のスタッフのみで植樹を行った他、オンライン(Zoom)で会議を行うなど、環境変化に対して、順応的な対応を行いました。

1. ネットワークを活かした「協働」の活動 <<ネットワーク事業>>

～情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業～

①、こもれびの森での植樹などの活動

・台風により人工林の倒木が多発したこもれびの森で、3月13日に植樹活動を行いました。新型コロナの感染防止のため、一般参加は中止し、スタッフ42人が集まり、計245本の植樹を行いました。

コバノミツバツツジ	50本	ヤマザクラ	50本
ムラサキシキブ	37本	ガマズミ	24本
カマツカ	24本	コナラ	60本

・ヤマザクラ50本は、箕面市を通じて、公益財団法人日本さくらの会の「宝くじ桜」事業で寄贈していただき植樹しました。



3/13の植樹活動

- ・コナラの苗木100本を、住友ゴム工業(株)の社会貢献活動で寄贈を受け、山麓部の里山管理2団体に40本を配布した他、残りの60本をこもれびの森に植樹しました。
- ・ムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミの苗木計90本を住友ゴム工業から寄贈を受け、こもれびの森に計85本植樹した他、5本をオヶ原池北の防鹿ネット内のモリアオガエルを誘致する活動に提供しました。
- ・3月13日の植樹活動に先立ち、2月28日に、スタッフ50人が集まり倒木の処理やスギの枝葉の整理などを行いました。
- ・上記の活動とは別に、梅雨前の6月17日に、市民が種から育てた苗木20本をネット内に植樹しました。

植樹本数:	2020年265本	2019年83本	累計	348本
-------	-----------	----------	----	------

・植栽(ヤマザクラ&コバノミツバツツジ)を業者に委託した費用や防鹿ネットなどの資材購入など、活動に必要な資金は、公益財団法人 夢&環境等支援宮崎記念基金からの助成金50万円の他に、山麓保全委員会への寄付金や箕面の山 災害復興募金を活用しました。

こもれびの森の植樹に関わる収支実績

支出	1,109千	植栽委託費	945千
		防鹿ネット他、資材費など	163千
収入	1,109千	宮崎記念基金からの助成金	500千
		寄付金収入	609千

・裸地化による土砂の流出防止を優先して、緊急的に苗木を調達していますが、猪名川水系中心とした地域性苗木の調達や育成の仕組み作りが課題となっています。



コバノミツバツツジの苗木



ヤマザクラの苗木



防鹿ネットの設置



日本森林林業振興会との支援協定



自動撮影カメラのデータ回収



テプラで補足案内を貼付

②、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会を通じた情報共有化と意見交換の活動

- ・2009年発足時からオフィシャルスポンサーとしてのアサヒビール(株)の支援が終了しました。新たに一般財団法人日本森林林業振興会大阪支部との支援協定書を12月に締結しました
- ・国・府・市などの行政と市民団体で構成する協議会の事務局を担い山間・山麓部の保全と活用を目的とした協議会の例会を年5回開催しました。※新型コロナの影響により4・5月の例会は中止

③、増えすぎたシカによる食害対策の継続

・大阪府の生物多様性センターによるシカの生息数調査のために、箕面の山パトロール隊、みのお里ぷらなどによる自動撮影カメラの管理やデータ送付などを継続した他、シカ害対策生物多様性研究フォーラムを行うなどの啓発活動に注力しました。

シカ害対策	①防鹿ネットの設置	②頭数管理(猟友会など)
	③モニタリング調査	④市民への啓発

④、安心・安全を目的とした「道標や案内板」整備の活動

- ・市民が中心となって進める明治の森箕面自然休養林管理運営協議会における道標や案内板整備活動を継続しました。
- ・ハイキング道の安全・安心のための現地調査、ナラ枯れ被害確認や不要となった粘着シートや防虫ネットを撤去する美化活動を行う現地調査グループによる活動を継続しました。
- ・教学の森やこもれびの森の道標に、緊急ポイントの案内のためにテプラで分かりやすい案内文言の貼付を始めました。

※2020年6月～2021年3月延べ130人日の活動(前年は146人日)

- ・箕面の山ハイキングマップ(裏面は教学の森とこもれびの森)を3,000部印刷し、配布しました。(箕面ビジターセンター事業として)
- ・箕面市地域創造部箕面営業室が4月末から配布するハイキングマップの道の修正などに協力しました。



箕面の森 ハイキングマップ

⑤、山麓保全活動助成団体の報告及び交流活動

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために、6月に予定していた助成団体の報告会及び交流会は中止しました。

2. 山林所有者との関わり強化の活動 ≪山林所有者関連事業≫

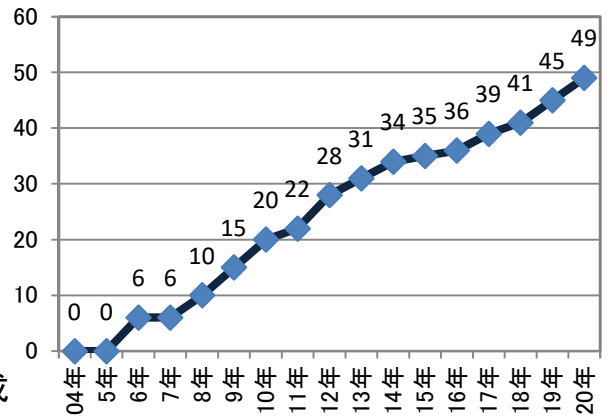
～山麓部の80%を占める民有地の課題に向き合う事業～

①、山林所有者へのPR・広報

- ・山林所有者の「自然緑地」同意率60%(面積比)を目標に、粟生間谷などのエリアごとに山林所有者に連絡を取るなど、個別対応を中心としたPR・広報を行いました。
- ・新規に3件、266,647㎡の自然緑地の同意を得られ、同意率は63%に大きく伸長しました。
- ※2020年度の助成は82件、8,256,700円(前年は76件、7,428,100円)

②、山林整備ボランティアの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は49件(前年より4件増)の要請があり、延べ613人日(前年は400人日)のボランティアが、主に風倒木の処理などの活動を行いました。
- ※粟生間谷地区の1件、129人日を含む



③、山林所有者の悩み相談

- ・2月・8月に山林所有者の”悩み相談会”を行い、6件の相談を受け、3件は山林整備サポート要請をされて、助成申請をされました。
- ・山林所有者からは相続に関連しての問い合わせや寄付の要望などについての相談がありました。

3. 山で活躍するボランティアや活動団体の育成 ≪人材・組織育成事業≫

～課題に向き合い、活動を担う人材や組織を育成する事業～

①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

- ・人と自然の入門講座「みのお森の学校」第15期はコロナ禍のため中止しました。
- 2020年9月からの第16期(2021年6月修了)は、第15期の12名及び新規の11名を加えて、受講生23名で講座を実施しました。



みのお森の学校

②、「山林整備」を担える人材の育成

- ・増え続ける山林所有者からの山林整備要望に応じて、山林整備を担うためのボランティア育成講座を2回開催しました。
- ※10月26日(土)22名、11月21日(土)4名が参加
- ・4月に予定していたボランティア育成講座はコロナ禍のため中止しました。



山林整備ボランティア養成講座

③、人材育成のための「里山の樹林管理ガイドライン」改訂版の作成

- ・森の学校の受講生など、初めての人を対象として、樹林管理ガイドラインの改訂版(≒25ページ)の作成に着手し、検討会議を3回開催しました。

- ④、「山麓学習(箕面の自然学習)」を担える人材の育成
 ・山麓学習を担う人材育成活動として、スクールインタープリター養成講座(1日間の講義・実習)を行いました。
 ※9月13日(日)に開催し13名(インターン2名を含む)が参加



スクールインタープリター養成講座

- ⑤、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援
 ・2020年度新規助成3団体(箕面学園/川端、北摂はじめの一步山麓学習協議会)の活動立ち上げ支援を行いました。

- ⑥、「みのお森のセラピー」事業の再編
 ・箕面ビジターセンターをフィールドとして、セラピー要素を組み込んだ「森の癒しウォーク・ハンモック体験」の活動を継続しました。
 ※森の癒しウォーク参加者:16名(4回)
 ・林野庁箕面森林ふれあい推進センターの事業募集は、新型コロナ感染防止のため中止となりました。



ハンモック体験

4. 事業への参加や理解と協力を得るための活動 <<PR・広報事業>>

～市民・会員・市民団体及び行政など関係者へのPR・広報の事業～

- ①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開
 ・ハイキング道の通行止め情報を中心に、コロナ禍によるイベント中止などを含めて、精力的に「ブログ」を更新しました。(年154回)あわせて、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、山麓保全情報の発信に努めました。
 ・山麓保全活動の助成結果や山麓保全委員会の活動などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報などを発信しました。



みのお山なみネット

- ②、ニュースレター「山なみ通信」の発行
 ・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行しました。
 ・各所に配架するとともにNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」サポート会員などに、各回約350人にDMを送りました。



みのお山なみ通信

- ③、広報・啓発イベントの開催
 ・11月3日に予定していた瀧安寺前広場での山とみどりの市民フェスティバルは新型コロナ感染防止のため中止しました。
 ・10月18日、箕面文化・交流センター8階で、生物多様性研究フォーラム「ニホンジカの生息状況とエキスポ90みのお記念の森の生物多様性」を実施しました。
 ※一般参加者50名、スタッフや報告者を含めて66人が参加

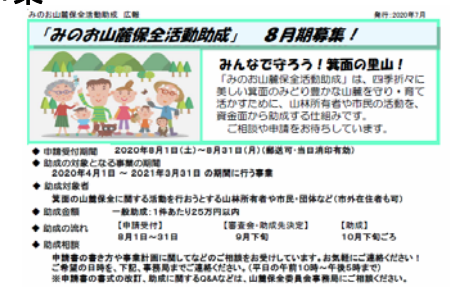


生物多様性フォーラム

5. 山麓保全活動助成金の活用と円滑な運営のための活動 <<山麓保全助成金交付事業>>

～みのお山麓保全活動助成の仕組みを活かし、適正な執行を図る事業～

- ・山林所有者や市民団体による「森林の持つ多面的な機能を最大限発揮させる」ことを目標として、山麓保全活動の円滑な移行に注力しました。
 ・3月末に終了した公益信託の助成に関わる事務処理を、第一四半期を中心に継続しました。(特別助成や助成金返還事務など)
 ・新しい仕組みへの移行にあたり、助成申請に関するQ&Aの改訂、助成対象経費の見直しや申請書式の改訂などに注力しました。



募集チラシ

①、助成申請の促進、審査会開催、助成金交付など

- ・箕面市の補助金規定に基づいた助成金交付規定や審査会規定に則り、7月と9月に助成申請を取りまとめて審査会を開催しました。
※新型コロナの影響により、3月の審査会は7月に延期するとともに市民団体の助成申請は8月期(後期)に集約して審査しました。
- ・JAバンクに助成金専用の銀行口座を開設し、昨年まで、りそな銀行が担っていた助成金の振り込みに係る業務(約100件)などをインターネットバンキングで行いました。

山林所有者への活動助成	2020年:計82件、8,256,700円
-------------	-----------------------

市民団体への活動助成	2020年:計16件、2,100,900円
------------	-----------------------

《「自然緑地」同意の拡大》

- ・粟生間谷地区/素戔鳴尊神社北から彩都西方の広大な山麓部を所有の企業と地元自治会、及び市民団体をマッチングし、自然緑地の同意を得て、同意率は63%に大きく伸長しました。

あわせて、地元自治会や箕面マウンテンバイク友の会などの協力を得て、素戔鳴尊神社北の山林整備活動の仕組みをつくりました。

《山林整備サポート活動の推進》

- ・山林所有者から山林整備サポート要請を受け、山林整備活動を行う5団体(みのお里ぷら、箕面の森のきこり隊など)に委託するなど、49件の山林整備サポート活動を推進しました。



箕面マウンテンバイク友の会の山林整備



山林整備サポート



学生インターンも活動に参加

②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓保全活動の助成を受けた団体や山林所有者の活動の進捗確認、提出された報告書のチェックなどの事務を行いました。

6. 箕面ビジターセンター企画運営事業

《ビジターセンター事業》

- ・大阪府から受託した箕面ビジターセンターの企画運営事業(2021年9月まで)、着実に実行するとともに、明治の森箕面国定公園の拠点施設としての機能強化に努めました。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、ビジターセンターの閉館の他、自然解説員の配置や自然観察会などのイベントが中止になりましたが、出来る限りの対策実施を行いました。

①、自然解説活動

○自然解説員の配置

- ・コロナ禍により4/11~5/10の期間で解説員の配置は休止しましたが、夏休みの人数を増やすなどの対応を行い、年175人/日の計画に対して、年178人/日の解説員を配置しました。

ハイキング道の案内や、植物や野鳥など季節の自然情報などの発信を行いました。

○観察会などのイベントの実施

- ・コロナ禍により、4月・5月・12月~2021年3月までのイベントを中止したために、年47回の計画に対して、年28回の実施となりました。※参加者数388人、イベントスタッフ数158人

・全てのイベントの当日参加は中止し、人数制限を行うとともに事前受付に変更し、感染症拡大防止の対策を実施しました。

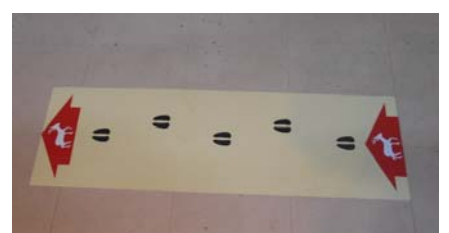
○展示室の企画運営

- ・展示室の一方通行のために、床面に5種類の動物の足跡をデザインしたステッカーを製作して貼り付けました。

・老朽化していた1階入り口壁面の地図を撤去し、新規に箕面の山ハイキングマップを製作して設置しました。



箕面の森のハイキングマップ



一方通行ステッカー(動物の足跡)

・1階正面入り口に、箕面の自然と生き物を紹介する映像を作成し、放映を開始しました。(春・夏・秋・冬の4種)

・その他、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。

○自然情報誌の発行

・地元写真家の協力を得て、年4回自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行しました。※2500部×4回＝10千部

・箕面ビジターセンターだより春の特集号と夏の特集号を発行しました。※1500部×2回



箕面の自然と生き物の放映

②、企画活動

・年8回「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他、自然情報やハイキング道の安心・安全情報の共有化を図りました。

③、PR・広報活動

・ホームページ「山なみネット」での箕面ビジターセンターのイベント情報などのブログ掲載、自然情報や安心安全情報の発信を活発に行った他、イベント開催の各種チラシを作成、配付しました。



箕面ビジターセンターだより

【トピックス】「生活環境林」である「こもれびの森」の活動

・こもれびの森(市有林/市民の森)は、良好な森林を保全しながら、気軽に森林浴などができる保健休養の場として、1990年(平成2年)に「生活環境保全林」に指定されています。(面積約54.9ha)

・生活環境保全林として、市民に憩いの場を提供する機能や水源のかん養、土砂の流出など山地災害の防止機能だけでなく、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、公益的機能の果たす役割は大きく、良好で快適な自然環境を維持することが大切です。



ネット内の植物

・2018年の台風21号による強風の影響で、3ヶ所の南斜面でスギ・ヒノキの人工林の多くが倒れるなど、大きな被害を受けました。

・2019年、大阪府が作業道を作り、重機を入れて風倒木を搬出し被害地に防鹿用の金柵を設置しました。

・こもれびの森を、市民が一層利用しやすい地域の環境財ととらえ、箕面市だけでなく、市民が中心になって、多様な主体による情報や意見の交換を行いつつ、持続可能な活動に結びつけていくための森林整備の仕組みづくりを行い、地域で支えていく必要があります。



住友ゴム工業から苗木搬出



シカ除け防護ネット



生活環境保全林



こもれびの森